



菱の实

佐賀大学理工学部同窓会会報

2002.1.1

No.3

国立大学の 再編・統合の時代を迎えて



理工学部長 長谷川 照

平成13年度は、波瀾万丈の21世紀初頭を予感させる幕開けの年であった。それは、6月に開催された国立大学協会総会で始まった。総会は国立大学法人化についての基本的な考え方とその枠組みの検討を目的としていた。文部科学省は、総会開催の前日、国立大学協会総会に出席する99大学長に対して、国立大学の法人化への早期移行を含む国立大学の構造改革の方針を発表した。国立大学の再編・統合と国公私「トップ30」への最重点化、所謂、遠山プランである。他方、今日まで法人化の具体化は急速に進んでおり、9月27日には、新しい「国立大学法人」像の中間報告が提出されている。この中間報告に対して、国立大学協会の提言を始め、各界からのパブリック・コメントが寄せられている。

佐賀大学・理工学部の将来計画の立案に際して、大学を取り巻く状況を整理して見よう。「大学改革」を促しあるいは強いているキーワードとして、少子化、行財政改革、教育・研究の国際化と学際化が挙げられる。前者の二つは行財政の論理から、後者の二つは教育・研究の論理から、それぞれ「大学改革」を目指している。

少子化と行財政改革は大学の数を問題にする。まず、単科大学と小数学部大学（99国立大学の内3学部以下の大学は55）の統合を考える。佐賀大学と佐賀医科大はまさにこの段階にいる。さらに、教員養成系学部・大学の再編統合は他学部・大学の再編統合を誘引するであろう。

国際化と学際化は大学の質の変革を要請する。通信網と交通網の発達によって、言語の障壁さえ解決すれば、学生は大学を選択する範囲を世界に広げることが出来る。佐賀大学はその教育力を世界に向かって証明しなければならない。前世紀に引き続き、21世紀においても科学技術の進歩を止めることは出来ない。科学技術と同様に人文科学の育成にも力を注ぐ必要がある。すべての学問分野で調和の取れた発展の政策を図ることが20世紀の反省の一つである。社会が要請する学際的な教育・研究の場—あらゆる分野の知恵が集積され、総合的判断が養われる場—が今後求められる大学像であろう。

昨年暮れ12月21日、佐賀大学と佐賀医科大学の間で統合を推進する合意書と覚書（平成15年10月統合、佐賀の地域に相応しい名称

を持った新大学の創設)が取り交わされた。この合意は、両大学が新たに総合大学の創設を目差すという大枠合意にすぎなく、新大学の具体的な有様は今後一年間の両大学教職員・学生の総意を結集して創られねばならない。望まれる新たな総合大学は単に学部を寄せ集めたものではない。21世紀に相応しい教育・研究のあり方から説き起こす必要がある。今年、医科大学との統合と教員養成系学部・大学の再編統合、法人化への準備等を背景として新大学を創設する大事業に取り組む大変な年となるであろう。

平成13年度から理工学部は将来に向けて基礎体力の強化を行なっている。昨年度に改組された博士前期課程の教育目標「人類の継続

的成長を可能にする科学技術の創成と人間優先指向エンジニアの育成」の観点から、改めて学部教育(平成9年度改組)の見直しと博士後期課程の再編(平成3年度設置、約200名の博士を輩出)に取り組んでいる。学部・大学院前期課程の教育カリキュラムと対応する縦横柔構造の教育システム、教員の教育評価等の検討がなされ近く冊子にまとめられる予定である。外部資金の獲得、任期制の検討、評価システムの確立、地域との連携等、多くの問題が山積している。先行き不透明な今日、どのような状況・展開にも対応できる基礎体力を養うことが肝要である。トップ30への挑戦、法人化への対応等、理工学部・工学系研究科は万全の体制を整備すべく健闘している。

第3回菱実会総会、講演会、および懇親会の報告



去る8月4日(土)午後2時半から、理工学部6号館(DC棟)において、第3回菱実会(理工学部同窓会)総会が開催された。秋永正幸同窓会会長の挨拶のあと、平成12年度事業報告及び決算報告、平成13年度事業計画及び予算案が審議され、承認された。今回は役員2年任期が終了したが、役員交代はなく、全員再任されることになった。

また、総会の後は引き続いて、理工学部を退官された2名の先生方の講演会が開催された。初めに機能物質化学科(旧化学科)を退官された白濱啓四郎先生に「逆空間から見た生物の動き」という演題で、次に、物理学科(現物理科学科)を退官された伊藤榮彦先生に「佐賀の今日この頃」という演題で、講演をしていただいた。

さらに、講演会終了後、場所をルネッサンス創世に移してパーティーを開き、楽しい一時を過ごした。



母校での研修を終えて



福岡県立三池工業高等学校
教諭 黒田 高 仁

私は、平成6年に土木工学科を卒業して、福岡県立三池工業高等学校の土木科に所属しています。高校教師になり、いくつかの教科を担当し、大学で学んだことを復習しながら、高校で授業をしています。2年目には1年生のクラス担任になり、教科指導・生徒指導で試行錯誤しながら卒業させ、2回目の卒業生を出す7年目の年に、福岡県の職業教育担当の長期派遣研修に応募しました。その理由は、私が在籍していた頃に比べると建設業界の研究や技術は進化しており、それを高校で研修するよりも、設備や環境の整った大学で習得した方がより高度かつ効果的で、情報機器の習熟のためにも良い機会と考えました。その後、選考された私は、理工学部都市工学科に研究生として、6月の中旬から12月の中旬までの半年間、研修できるようになりました。

都市工学科では、建設材料やコンクリート構造や岩石・岩盤の研究室である石橋・伊藤研究室にお世話になり、歩道用の「透水性舗装コンクリート」の研究を実施しました。このコンクリートは、雨水を浸透させることができ、安全面や景観面から見て、今後、必要不可欠なものになると思われれます。具体的には、道路部に比べて地下埋設物の多い歩道部

に有効なブロックによる舗装を想定し、作業効率を考慮して、現在歩道舗装に多用されているインターロッキングよりも寸法の大きい平板ブロックの開発を試みました。その結果、透水性コンクリートの特性を把握でき、今後部分的な改善や工夫を加えることで、歩道用の舗装板として使用可能であることが分かりました。私にとって、これら一連の実験や研究は、大変に有意義な経験であったとともに、これからの教師生活に良い刺激となりました。

ところで、7年前の卒業時と比べて、大学環境の変化を述べてみますと、①第2生協横のグラウンドがなくなり理工学部や農学部の大きな研究棟が建ち並んでいる、②学内に自動車が入るには自動ゲートがあるためバスカードが必要となっている、③学生各自に大学よりメールアドレスを与えてある、④研究室や情報処理棟から自由にホームページが閲覧できる、など益々情報化・自動化して、研究に専念できる環境が整っていることを実感しました。

最後に、諸先生方や研究室の学生の皆様、半年間あたたかくご支援頂き、誠にありがとうございました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

事務局では会員皆様方からのご寄稿をお願いしています。理工学部に関する昔の思い出や、現在の会社のPRなどございましたら、お名前、卒業年次、在籍学科、現在の会社名などを添えて、事務局宛に連絡下さい。皆様方からのご寄稿を心よりお待ちしております。

理工学部同窓会(菱実会)ホームページの今日この頃

佐賀大学同窓会のホームページを立ち上げてはや2年となりました。当初からみてあまり変わっていないという印象をお持ちの事と思います。今回はそのあたりの事をお話ししてみます。このホームページが作成されたのは2年前の10月でした。以前には分かれて存在していた佐賀大学内の各同窓会が佐賀大学同窓会を表看板として、そこにまとまったのです。という事はやはり表看板の佐賀大学同窓会ホームページをつくらねばなるまいという流れは推して知るべし。コンピュータのある学科に所属し、かつ同窓生であるわたしのところにその管理が。。。たいへんだらうかと心配してくださる方もいらっしゃると思いますが、私自身は当然好きでやっています。それにしても内容薄いんじゃないの?とお叱りを頂戴そうですが、あえて口をひらかせていただければ、やはりその内容をどうするかという事につきますのです。1つの同窓会に固まってそこから発信する内容は同窓会の人口から考えるととてもまとまりのある内容をピックアップして公開するのは至難の技です。なぜかというところ載せてよいもの悪いもの、また、電子的な道具と歴史ある各同窓会の運営方法とをスムーズに移行するためには片手間にやっているだけでは不可能な部分もあります。私個人の権限で載せたり載せなかったり

の判断はある意味危険ですし、かといって全てを会議にかけるのも大変な時間の浪費になりますし。やっぱり個人で趣味の世界のホームページのほうが気楽だだと思います。自分で決定し、好きな事だけアップして、自分だけで責任とれますからね。こういう事を考えはじめて最近掲示板を作成しました。なるべく多くの人の要望などを取り入れて内容的に重要でない判断される事柄については手の許すかぎりページ作成に取り入れたいと思っています。校歌が欲しいとか支部や各地で同窓生での集まりの様子など同窓会の会議にかけなくてもよさそうなものがありましたらどしどし掲示板に書き込んでみてください。また、要望のみではなく同窓生の皆さんのコミュニケーションの場になればと思っておりますので気楽に書き込みをお願いします。

(dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp)
寺山康教 (H1・機械)

お詫び

新名簿は当初H13年12月初旬の完成予定でしたが、入学者を対象とした全会員の調査に手間取り発行がH14年2月中旬になります。

申し訳ありませんが、今しばらくお待ち下さいますようお願い申し上げます。

菱実会の動き (平成12年10月～14年1月)

- | | | | |
|-------------|--------------------|-------------|----------------------------|
| 平成12年10月22日 | 第2回理工学部同窓会役員会 | 平成13年8月4日 | 第3回理工学部同窓会総会、講演会、懇親会 |
| 平成13年3月28日 | 第6回理工学部同窓会役員会 | 平成13年12月18日 | 理工学部就職懇談会への支援(1学科、卒業生講師2名) |
| 平成13年5月1日 | 理工学部同窓会会報「菱の実」号外発行 | 平成14年1月1日 | 理工学部同窓会会報「菱の実」第3号発行 |
| 平成13年5月11日 | 第7回理工学部同窓会役員会 | | |
| 平成13年8月2日 | 会計監査(平成12年度決算分) | | |

発行 佐賀大学理工学部同窓会 菱実会

佐賀市本庄町1佐賀大学内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700

http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/ E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

発行者 秋永 正幸 (S45・機) 編集代表者 椿 忠彦 (S53・物)